

線虫がん検査『N-NOSE』、 がんの術前・術後の変化を捉えることが明らかに

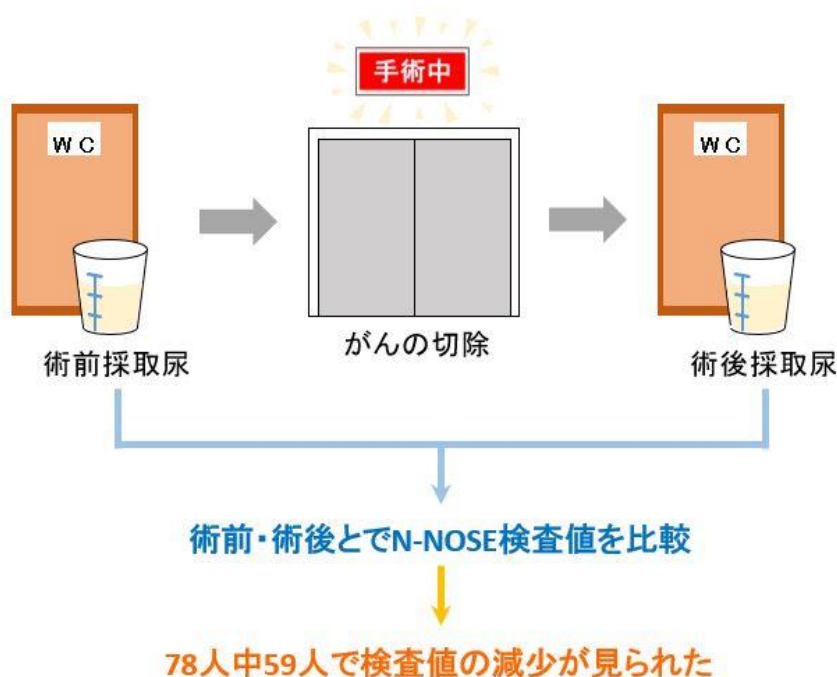
株式会社 HIROTSU バイオサイエンス（本社：東京都港区、代表取締役：広津崇亮、以下 HBS）と公益社団法人鹿児島共済会南風病院（鹿児島県鹿児島市）が共同で行っている線虫がん検査『N-NOSE(*1)』の臨床研究の成果が医学誌「Biomarkers in Cancer」に掲載されました(*2)。

がんは手術後の経過観察が肝要です。当社は、尿一滴からがん罹患者と健常者を高精度で識別できるがん検査『N-NOSE』の値が、がん切除手術の前と後で変化すれば、手術評価として使用できること、さらにその後の経過観察、再発モニタリングにも有用な新たな指標になり得ると考え、がん手術の術前・術後の値を比較・評価しました。

その結果、多数の被験者で術後に陰転化が認められたことから、『N-NOSE』は手術評価の指標として有用であることがわかりました。がん組織のみの切除により線虫の行動が変化したことから、がん患者の尿に寄っていく線虫の行動が、がんが原因であることを示す結果と考えられます。

【研究内容】

南風病院（鹿児島県、鹿児島市）を受診した大腸・胃がんの患者様（78名）から、がん切除手術前と手術後とで尿を採取し、それぞれの尿検体について『N-NOSE』検査を実施。78人中59人で、術前の検査値と比較して術後の検査値が有意に低下した。



- *1 『N-NOSE』は株式会社 HIROTSU バイオサイエンスの登録商標です。
- *2 原論文：H. Kusumoto, *et. al.*, Biomarkers in Cancer, Behavioural Response Alteration in *Caenorhabditis elegans* to Urine After Surgical Removal of Cancer Nematode-NOSE (N-NOSE) for Postoperative Evaluation,
(<https://journals.sagepub.com/doi/full/10.1177/1179299X19896551>)

<報道機関お問合せ先>

株式会社 HIROTSU バイオサイエンス 広報室

〒107-0062 東京都港区南青山 2-24-11 フォーラムビルディング 2F

E-mail : press@hbio.jp